

今回の論点（文化行政にふさわしい検証・評価システム構築）

- ①文化行政にふさわしい検証・評価システム（案）についてご議論。特に、評価者の観点からどのようなことが望まれるか  
～専門家による二次評価を的確に実施するためにどのような工夫が必要か～  
＜例＞ 評価の時期、実施体制、資料・データ収集など
- ②現在設定されているアウトカム指標（府民アンケート等）は、専門家による二次評価を的確に反映できるか
- ③新戦略全体評価に向けて、どのような視点で検討を進めるべきか

文化行政にふさわしい検証・評価システム（案）

1. 基本的考え方

- 文化事業の効果・効能は、コスト&プロフィット（経済効率性）の視点だけでは評価しきれない。文化事業が創出する多様で感性的なベネフィット（社会的有効性）に配慮した評価が必要
- 各事業を成り立たせている体系（文振条例－全庁方針－文振計画－各戦略－各施策－各事業）がめざす目標や事業のコンセプトをきちんと踏まえることが必要

【ex】木津川遊歩空間の整備  
〔経済効率性〕遊歩道整備 〔社会的有効性〕都市景観・デザインの向上

2. 評価の視点

経済性の評価&効率性の評価

- どれだけのコスト・労力をかけて、どれだけの準備・用意を行い、どれだけの参加をもたらしたか

各事業所管課においてチェックし、把握

有効性（妥当性）の評価

- 社会に有益な変化をもたらしているか
- 戦略目的の達成に貢献しているか
- さらに改善すべきことは何か

事業所管課の判断以外に専門的知見が必要

3. 評価システムと手法

一次評価

（現場に近く、最も状況を把握している事業所管課が評価）

- ・ 数値目標など客観的データに基づく定量的評価（来場者数、アンケート調査等）
- ・ 文化課をはじめ全庁各課の所管事業を対象

【ex】 <既に有識者会議が設置されている事業>

- おおさかカンヴァス推進事業
  - ・ 応募件数が募集件数(40件)の2倍以上かつ来場者の過半数がよかったと評価すること

<有識者会議が設けられていない事業>

- メセナ自動販売機の設置
  - ・ 新規設置台数 10か所(10台)

二次評価

（事業所管課による定性的評価案を踏まえ専門家が外部評価）

- ・ 専門家の知見による定性的評価（場の提供、文化的な風土づくり等）
- ・ 8つの各戦略を横串として評価
- ・ 委員に事業目的をプレゼンテーション

【ex】 <既に有識者会議が設置されている事業>

- おおさかカンヴァス推進事業
  - ・ 公共空間が表現の場として確立したと言えるか

<有識者会議が設けられていない事業>

- メセナ自動販売機の設置
  - ・ 寄附で文化を支える社会風土づくりに役立っているか

- 改善
- スクラップ&ビルド
- 新規事業創設

想定スケジュール

【H23年度】

- ・ H22事業の評価（一次・二次）※H23事業の方向性も踏まえる
- ・ 新戦略全体の評価

【H24年度】

- ・ H23事業の評価（一次・二次）※H24事業の方向性も踏まえる
- ・ 次期戦略の策定

5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月

各施策・事業評価

- 事業所管課・文化課による一次評価（H23.7下）※適宜委員による現地視察

● H23 第2回振興会議開催（H23.9上）

- ・ 事業所管課（又は取りまとめ課）によるプレゼン、振興会議委員による二次評価
- ・ 新戦略全体評価の検討

新戦略全体評価

● H23 第3回振興会議開催（H24.2）

- ・ 新戦略全体の評価 ※次期戦略の諮問

次期戦略の検討